



—北アフリカ地域ニュース—

エジプト：アラブ首脳会議に向けたエジプトの動き

(3月18日付アル・モスリ・アル・ヨーム紙)

18日付、現地独立系日刊紙アル・モスリ・アル・ヨーム紙はドーハで30日、31日に開催予定のアラブ首脳会議に向けたエジプトの動きについて以下の通り報じている。

1. ムバーラク大統領のアラブ首脳会議不参加

- (1) エジプトは、ドーハのアラブ首脳会議に首脳レベルでの参加は行わない予定である。エジプトは、他のアラブ穏健諸国との協議を通じ、全体として次回アラブ首脳会議の出席者レベルを下げ、カタルに対し政治的圧力をかけようとしている。この動きはエジプトがカタルに対しアラブ地域の諸問題への立場を再考するよう促す目的がある。
- (2) カタルからのアラブ首脳会議招待状はハマド・ビン・ジャーシム外相ではなく、アティヤ国務相よりムバーラク大統領に手交された。

2. エジプト・カタル関係

- (1) 最近カタル政府高官はエジプトを訪問しておらず、最近のエジプト・カタル関係は良好とは言えない。
- (2) ハマド・カタル首長が、リヤドでのアラブ4者首脳会合に参加せず、テヘランでのイスラム諸国首脳会議に参加した事は、カタルのイラン寄りの姿勢を示しており、これはエジプト等アラブ穏健諸国にとって受け入れられない。
- (3) ドーハ・アラブ首脳会議へのイラン大統領の招待は、カタルによるアラブの立場に対する挑戦である。

3. ムバーラク大統領のオマーン訪問

ムバーラク大統領は、18日～19日の日程でオマーンを訪問する。今回の訪問は、ドーハ・アラブ首脳会議へ向けたアラブ穏健諸国との協議の一環で行われる。